

# 果実販売動向

販売課 米澤松太



10月の果実動向は、ミカン・柿については台風の影響により下位等級品が多く、出荷が出遅れ中旬以降には回復しましたが、ブドウ等を含め、果実全般に品薄傾向となり、数量減の単価高で推移しました。輸入果実については、国産果実の品薄感からキウイ・バナナを中心に潤沢な入荷となり、売場の中心となりました。リンゴについては、早生種からの高値基調により例年以上に流通在庫が多いことと、他県産の中生種の出遅れから産地リレーが滞り、また、台風による樹上損傷から下位等級比率が高く、リンゴ全般に流通量が増加したことから近年にない厳しい販売となりました。また、輸出については、トキ・早生ふじを中心に香港・台湾・タイ等へ例年以上に出荷されましたが、台風等の影響及び中秋節需要の引き合いによる産地市場高から適期収穫されな

いものが出回り、食味が悪いことに加え、仕入価格も高かったことから荷動きが緩慢となり滞荷の状況が続いています。一方、産地市場においては、CA貯蔵向けの「ジヨナゴールド」が高値で推移し、特に有袋ふじについては高騰し、「輸出向け・CA貯蔵向け」の品種とそれ以外の品種で二極化現象となっています。

今後は、ミカンについては、下位等級品は多いものの、平年を上回る流通量が予想されることに加えて、輸入果実についても国産果実の品薄感を背景に、潤沢な出荷が予想されることから売場の主力品種として販売される見込みです。リンゴについては、中生種がほぼ終了し、他県産の晩生種に切り替わりますが、リンゴ全般に荷動きが低迷していることから、小売価格の見直しや、下位等級品を中心とした企画販売、消費宣伝の取り組みを強化し、売場を拡大することが今後の価格の底上げとなります。11月下旬からは、年末向け贈答や春節向け輸出もスタート

することから、相場も回復する見込みです。

全農あおもりデータ・10/31

品 種	サンつがる	早生ふじ	ト キ	きおう	サンジヨナ	その他	合 計
単 価 (円)	2,758	2,966	2,836	2,836	2,756	2,803	2,837
前 年 比 (%)	117	105	113	119	100	104	112
数量 (箱/10kg)	917,508	594,756	163,620	131,538	1,859	121,145	1,930,426
前 年 比 (%)	84	95	97	96	40	88	89

## お知らせ

皆様お待ちかねの「青年部のもち米」が12月上旬に販売開始を予定しています。数量に限りがあるため、予約販売を受付致します。予約していただいた方には、無料で配達させていただきます。

例年通り、直売所「林檎の森」でも販売しますので是非ご賞味あれ！

価 格：1升 **600**円 (税込)

支払い方法：現金又は口座振替

お問合せ先：JA相馬村 農業振興課 青年部事務局 三上拓哉

Tel 0172-84-3215



## 直売所「林檎の森」

直売所 二上 礁子



いつも直売所「林檎の森」をご利用いただき誠にありがとうございます。

直売所では、毎日新鮮で美味しい野菜や果物、山菜が並んでいます。野菜は大きくて安い白菜やサトイモなど他にもたくさん種類があり、山菜はナラタケや、くりたけ、はたけしめじ、特になめこなどが多く出ています。また、漬け物に使える赤カブも始めてきました。赤カブは人気でその日の入荷量にもよりますが、今のところだいたい午前中には売り切れる日が多いので午前中が狙い目です。

さらに「他の人の漬け物を食べてみたい、そんなに量はいらさないけど食べたい、漬け物は作るのが手間だしパッと食べたい」という方には、冷蔵棚で販売されている会員が作った漬け物がオススメです！先月あたりからは、リンゴの出荷が日を追うごとに増えてきました。品種についても早生種から中生種へと徐々に切り替わり、今後は晩生種の「ふじ」を中心とした



注目の「りんごまつり」

主力品種が出荷される予定です。リンゴが増えてくると同時に「リンゴの発送はできますか？」という声も多くなってきました。当直売所では、毎日発送を受けております。発送の際は、レジでスタッフが対応致しますので、遠慮なくひと声お掛けください。また、贈答用リンゴの発注も承っております。その際も、スタッフにご相談ください。

さて、今年もみなさんお待ちかねの「りんごまつり」がいよいよ始まりです！開催期間は11月17日（土）～12月9日（日）までの予定となっております。美味しい飛馬リンゴをさらに広められるチャンスですので、県内外の親戚や友人に送るなどして相馬のリンゴをもっと盛り上げていきましょう！！

## いきいき女性部通信

農業振興課 女性部担当 堀井 裕子



10月18日、県下JA女性部長・支部長・事務局合同会議が行われ、各農協における「女性部員増加運動」の取組を報告しました。この運動は、部員が減少傾向にあることから三ヶ年計画で進められており、今年で2年目を迎えます。

会議では、部員数増加のためにはどのような取組が大切なのかを確認しました。その中には、地域の祭りや年齢の近い世代によるサークル活動からの勧誘や、食に関心のある母親層への料理教室及び離乳食や減塩レシピ等を活用した取組で女性部との接点を増やすなど、様々な意見や目標が挙げられました。随時、部員を募集することは基より、とにかく農協に足を運んでもらう機会を増やすことが大切だと感じました。

午後からは、次世代女性リーダー研修会が行われ、「JA自己改革って？」と題してJA青森中央会JA改革推進室 渋谷亮室長が講演しました。JAの自己改革が一層求められている現在、後押しする



合同会議の様子

JA女性組織としても「学習」「対話」「発信」がとても大切になっています。今回の講演では、農業やJA事業において、女性の活躍がとても大切だということを実感することができました。また、自己改革を議論するにあたって、「多くの女性の意見が述べられているか」「意見に偏りがないか」など慎重に進めていく必要性も感じました。当JA女性部においても、「地域の農業」と「くらし」のために自己改革を後押し、地域にJAが必要だということを発信していきたいと思えます。